

1. 学校名 長野県高山村立高山中学校 対象（2 学年、5 5 人）

2. 探究課題・活動実践の概要、ねらい、目標等

(1) 活動テーマ

ユネスコエコパークを知ろう

(2) 目 標

・志賀高原（ユネスコエコパーク）の学習を通し、高山村のよさと課題を再構築する。



(3) ESD の視点、育成する資質・能力

①構成概念

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 多様性（多種多様な現象が起きていること） | <input type="checkbox"/> 公平性（一人ひとりを大切に） |
| <input checked="" type="checkbox"/> 相互性（関わりあっている） | <input checked="" type="checkbox"/> 連携性（互いに連携・協力すること） |
| <input checked="" type="checkbox"/> 有限性（限りがある） | <input type="checkbox"/> 責任制（責任を持って） |
| <input type="checkbox"/> その他（ ） | |

②育成する資質・能力

- | | |
|--|--------------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 批判的に考える力 | <input type="checkbox"/> 他者と協力する力 |
| <input type="checkbox"/> 未来像を予測して計画を立てる力 | <input type="checkbox"/> つながりを尊重する態度 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 多面的・総合的に考える力 | <input type="checkbox"/> 進んで参加する態度 |
| <input type="checkbox"/> コミュニケーションを行う力 | |

(4) 関連する SDG s



(5) 探究課題・活動実践の概要

本年度 2 学年では、3 つの分野の②における持続可能な発展に関わる高山中学校の取り組みとして、自分たちの住んでいる志賀高原ユネスコエコパークについて学習をした。

実際に、志賀高原の「緩衝地域」「核心地域」を散策し、自分たちの目で見ながら、ガイドさんのお話をお聞きすることを通して、「移行地域」と「緩衝地域」の境目にある学校林やその土壤に興味を持つことができた。

そこで、学校林の整備を行い、そこで集めた小枝や松ぼっくりを村内にある山田牧場のキャンパーに利用していただいた。また、移行地域にある高山中の土壤調査を行い、「自然環境の状態の指標になる土壤動物」の表に照らし合わせながら、取り出した生物の種類や数によって点数化した。それらの活動を通して、高山村ならではの地形や、気候、そして豊かな土地について理解を深めた。

普段当たり前のように生活をしていた高山村が、自然の恵みの上に成り立っていたこと、そして果物や温泉もこの自然環境があってこそのものであることに気づき、この自然環境を守っていきたくて考えるようになった。

3. 流れ（指導計画の概略）

6 月：志賀高原（ユネスコエコパーク）、山ノ内町について分担して事前学習をし、情報共有する。

7 月：志賀高原の「自然探勝コース」を、ガイドさんの案内で、実際に見て歩く。

自然会館内の展示を、ガイドさんの話をお聞きしながら、見学する。

7 月：学校で、ユネスコエコパークの学習の振り返りをし、疑問や気づきを出し合う。

8-9 月：疑問や気づきに基づき、調べ学習・活動をする。

10 月：活動をまとめる。

1 月：土壤調査の考察をする。

2月：信州 ESD コンソーシアム成果発表交流会にて発表。

4. 効果・反応・所感

- ・高山村の自然環境は良いと思っていた生徒たちが、校内の土壌調査をした結果、「かなり人間に荒らされた状態」の範囲に入っていたことに、衝撃を受けた。この衝撃から、学校林での土壌調査に再チャレンジしたいという気持ちが芽生えている。

5. 指導方法・体制の工夫（協力者や資源）

- ・志賀高原ガイド（志賀高原ガイド組合）
- ・志賀高原ユネスコエコパーク（山ノ内町）
- ・学校林（高山村大字牧）